

# 開発建設部橋梁保全チームの活動状況について

道路管理課 課長補佐 ◎ 平良 博孝

維持修繕係長 ○ 松川 剛

維持修繕係 波平 大吾

## 1. 目的

沖縄総合事務局管内の直轄国道における橋梁は、本土復帰 {1972年(S47年)} 以降、重点的に整備が進められてきた。

しかし、今後は老朽化した橋梁が増加し修繕費や更新に伴う架け替え費用の増加が想定されることから「橋梁の長寿命化修繕計画」に基づき計画的な点検・維持補修を着実に進めコスト縮減を図っていく必要がある。

これまで点検等の実施にあたっては、職員不足からコンサルタント等へ委託を行っている。そのため、職員自ら現場へ出向く機会が減り職員の点検技術の低下が否めない状況となってきた。

今回、橋梁の不具合時に担当職員自ら迅速かつ適切な対応ができるような高い技術力を取得することを目的に「開発建設部橋梁保全チーム」を立ち上げ、活動を行っている。今後は劣化損傷の著しい自治体橋梁の技術的支援にも取り組むこととしている。その活動状況について紹介を行うものである。

## 2. 内容

①開発建設部橋梁保全チームの活動状況及び今後の予定についての紹介。

②市町村管理橋梁への支援活動状況及び今後の予定についての紹介。

## 3. 結論

「コンクリートから人へ」の政治状況の中、道路橋の維持修繕予算の増加は見込めない状況であり、職員自ら管理する橋梁を点検できるための技術力アップは必要不可欠な状況である。

今回の開発建設部橋梁保全チームの取り組みによる技術力向上は現時点で未知数ではあるが「まずは実行あるのみ」の精神で活動していきます。

## 4. 今後の課題

平成21年度より、他地整等においては道路構造保全官、道路保全企画係長等、新たに組織設置がなされ、地整等管内の橋梁保全計画を担当している。しかしながら、沖縄総合事務局においては組織要求が認められておらず、従前からの組織のまま、道理管理課が担当している。平成22年度からは、新たに市町村管理橋梁の支援活動（点検計画作成、点検実施に係る支援等）も業務として加わることから、今まで以上にいかに効率よく対応していくかが課題である。